

あなたを守る 正しい避難

☎危機管理室 ☎(32)6280



▲平成26年9月11日 有珠の沢町土砂災害発生現場

〈土砂災害編〉

土砂災害とは

大雨や地震などが引き金となり起こる災害で、山や崖が崩れたり、水と混ざり合った土や石が川から流れ出したりして被害を及ぼすもので、大きく分けて崖崩れ、土石流、地すべりの3つに分類されます。市内では、崖崩れや土石流の危険箇所として84カ所が北海道により示されています。この危険箇所については、適切な警戒避難体制の整備に役立てるため、今後5年をめぐりに、具体的にどの程度土砂災害の危険が及ぶかなど、詳しい調査が予定されています。
※土砂災害危険箇所は危機管理室のホームページで確認することができます。

土砂災害への警戒

市では、大雨による土砂災害の危険が懸念される場合、24時間体制で、現地のパトロールのほか、気象情報に注視するなど警戒活動に入ります。

気象台が発表する気象警報とともに、土壌にたまった雨量の状況により、土砂災害の危険性を示す北海道土砂災害警戒情報システムを活用し、土砂災害危険箇所などを中心に避難が必要な地域を把握し、必要に応じて避難情報を発信することとしています。



近年、異常気象に伴う局地的豪雨によって、土砂災害による被害を二コースとして見ることも多くなりました。私たちが住む苫小牧でも、昨年、市内の数箇所です砂災害が発生しており、十分な警戒が必要となってきました。

また、御嶽山おんたけさんや口永良部島くちのえらぶしまの火山噴火災害に見られるように、活火山である樽前山への災害対策も万全を期す必要があります。

今回の特集では、土砂災害と火山噴火災害を例に災害からの避難についてお知らせします。